



狛江市コミュニティ・スクール
イメージキャラクター
コミュにゃん

コミュニティ・スクール通信 NO.5-2

～ 三中ゾーンの小中連携イベントづくり～

発行/令和4年10月

発行者/学校教育課

担当/地域学校連携支援マネージャー石谷

ゾーンとして行事を有効に考えていく取組を

狛江市内、4つのゾーンの学校運営協議会は、それぞれに小中連携（小中一貫）を基本として「義務教育を修了したときの姿」という目標の策定を進めています。

三中ゾーンの場合は、コミュニティ・スクールを契機に、小中それぞれにあった行事を小中合同の行事に統合しました。「中学生が小学生を楽しませる」ことをコンセプトに、小学生と中学生が関わり合うことで、ゾーンの特色となる行事としてリメイク、スリム化をめざしました。

「中学生は行事を進行したり小学生のお世話をしたりすることで、年長者の自覚と責任を学び、自己有用感を高める。」「小学生は、そんな中学生に接し、中学への憧れや目標をもつ。」ことが期待されます。



学校運営協議会委員の皆さんです。皆さんはこの組織ができるずっと以前から和泉小、三中の子どもたちのために関わり続け、ご尽力くださっている方々です。今年度からのコミュニティ・スクール導入にあたり、全面的に協力をいただけることになりました。頼もしい学校応援団です。



9月17日、中学生の司会進行で「オータム和泉の日」と名付けられたスポーツイベントの開会式が始まりました。もともと小学校と中学校に別々にあったスポーツイベントを合体させて、ゾーンとしての取組みにリメイクし、育てたい児童、生徒像に近づいていこうとするものです。土曜日でしたが、多くの児童、生徒、保護者の参加があり盛り上がりました。



中学生が審判をしてドッジボール大会から始まりました。いつの時代も子どもたちはドッジボールが大好きです。ひとしきり汗をかいた後は、地元の踊りの会の方のご指導で、盆踊りを踊りました。来年はやぐらを建ててその周りで踊りたいですね。最後は、小学校高学年児童と中学生の長縄対決です。5分間でどちらが多く跳んだかを競いました。そして・・・やっぱり中学生はすごい。優勝カップを手に入れました。小学生の皆さん、かっこよくて憧れちゃいますよね。このような取組みが、その時限りのもので終わることなく、地域が深く関わることにより、持続可能で組織的・継続的なものになるために、コミュニティ・スクールはあるといえます。